

樋爪氏の祖は、藤原清衡の四男清綱であるといわれています。清綱は祖父に当たる藤原経清と同じ宮城の亘理郡を拠点とし、「亘理権十郎」を名乗っていましたが、長男・俊衡が志波郡を治めることになり、姓を樋爪氏に変えたといわれています。

—紫波町まち旅図鑑 紫波町・紫波町観光交流協会発行から—

《《《 9～10月行事予定のお知らせ 》》》

9月18日 (水曜日)	第45回月例懇話会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：堀切 奎三 テーマ：「紫波町の金山と「樋爪の館」造営 発表者：高橋 敬明 テーマ：「比爪館1～3次発掘調査の概要」
10月6日 (日曜日)	第3回遺跡めぐり ＝神社、お寺(堂)＝ ※今回は自家用車に分乗して回りますので、参加者は会員に限定します。	午前9時 赤石公民館 出発(自家用車分乗)～ 薬師神社*～嶋の堂観音*～大日堂・覚王寺* ～善知鳥館跡～巖島神社～八坂神社～岩手山神社～志賀理和気神社*～廣澤寺* (*印は内部拝観予定、一部変更あり。) 午後3時頃 赤石公民館帰着・解散
10月16日 (水曜日)	第45回月例懇話会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：金濱 興一 テーマ：「(未定)」 発表者：高橋 敬明 テーマ：「比爪館4～5次発掘調査の概要」

< 予 告 >

- 11月10日(日曜日):平成25年度会員研修旅行/秋田市方面/マイクロバス使用/日帰り
12月1日(日曜日):第11回定期講演会/赤石公民館/午後2時から/講師:現在交渉中
※ 当初計画の期日が変更になりましたのでご注意ください。

☆☆☆ 紫波町指定史跡 樋爪館跡の道案内人活動 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

赤石地区の多くの皆さんが、樋爪氏・樋爪館の歴史を知り、郷土に誇りをもつようになるのが、私たちの願いの一つです。このため、昨年度から会員のボランティア活動として、遺跡の道案内人活動に取り組んできました。

皆さんのお友達や、ご近所の方々を誘って樋爪館関係の遺跡めぐりを計画してみてもいいでしょう。地域の子供会や老人クラブの活動計画に、取り入れていただくのも良い方法だと思います。当日の案内や説明は案内人部会が担当します。

- Aコース 所要時間約3時間 日詰駅発着 五郎沼一周・樋爪館関連遺跡めぐり
Bコース 所要時間約2時間 赤石小学校発着 樋爪館関連遺跡めぐり
Cコース 所要時間約1時間 五郎沼発着 五郎沼一周遺跡めぐり

※ 標準コース以外に、グループの年齢や目的に合わせた、ご希望の内容を検討しますので、遠慮なく下記にご相談ください。

019-676-39999 (赤石公民館内 赤石地区ひづめ館懇話会事務局)

080-1836-6046 (副会長・道案内人部会長 佐藤雄一)

比爪館跡(ひづめだて)跡発掘調査報告書 紫波町教育委員会 昭和49年3月発行から

昭和44年の春になって、赤石小学校々庭の暗渠配水工事施行中にたまたま柱脚痕が発見されたことから、緊急に第2次の発掘調査を実施することになった。その結果、ここからも建物跡が検出されたが、諸般の事情から部分発掘にとどめざるを得なかったため、その全容を確認するまでにいたらなかった。そのため、この地の全面発掘が課題となったが、これにこたえて実施されたのが第3次すなわち今回の発掘調査である。

本調査の結果、本遺跡は「吾妻鏡」のいう比爪館の跡であることはまず疑いものとなったが、このことは、ひとり紫波地方史の上からだけでなく、本県における古代居館の研究上からも、きわめて重要な意義をもつものである。

それだけに、また、今後の調査に期待するところも大であるが、それとあわせて、第1次調査で検出された比爪館よりも古い建物遺構についても究明の必要性があることを忘れてはならない。県段階での調査を渴望してやまないものがある。 〈抜粋〉

昭和49年3月

紫波町教育委員会教育長 加藤駿二

1 調査期間

第2次 昭和44年3月27日より4月2日までの6日間

第3次 昭和47年7月20日より同29日までの10日間

2 調査地域

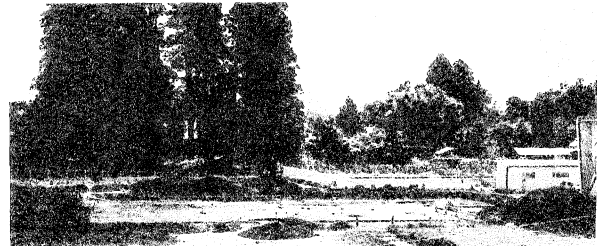
赤石小学校校庭のうち約500㎡

3 調査員

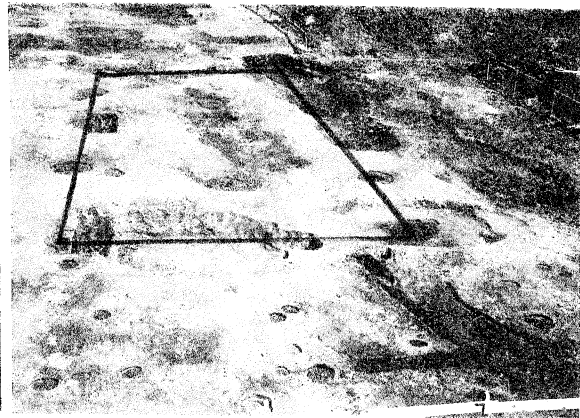
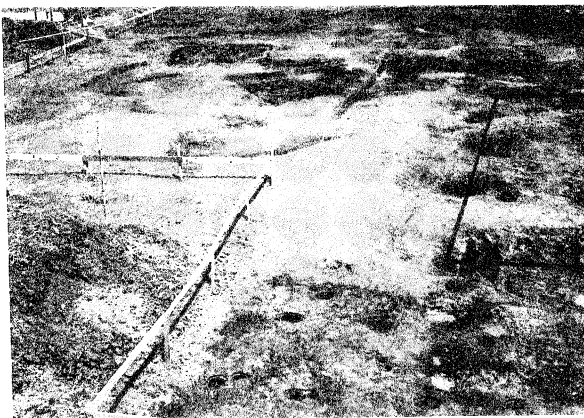
岩手大学教授・県文化財専門委員 板橋 源

岩手大学 文部技官 佐々木 博康

紫波町文化財調査委員 佐藤 政雄



赤石小学校校舎2階から南に向かって撮影。遠景の杉林の奥が薬師神社。



調査区を西から撮影。左上(北東)が堅穴住居、中央右寄りが小柱状遺構。

